

みどりのハンドブック

～Garden life Book～



一般社団法人山梨県造園建設業協会

はじめに

造園業を生業としている私達は、お客様から親しみを込めて「植木屋さん」と呼ばれています。そのせいか私達の仕事は植木を植える・植木を剪定するというように樹木に関することに限定されているイメージがあるようです。さらに、近年は分業化が進み造園業の仕事はより限定的に捉えられがちですが、お庭に関することは何でもできるのが我々造園業なのです。つまり書籍等にみられる「外構工事」や「エクステリア工事」と言われるものは「造園工事」から派生したものなのです。

私達は明治以前には大名等の地位の高い方に使え、明治以降は時の有力者の作庭やその管理に携わっていました。戦後高度成長期に戸建て住宅の普及と共に現在の業態となり、公共緑化の広がりと共に公園工事や街路樹の整備等その活動の幅を広げてきました。

その始まりは「植木屋さん」と呼ばれるような身近なものであり、お庭の仕事はもちろん、軽微な大工仕事までもこなす便利な存在なのです。

現在、お客様とのやり取りの中で、大きくなりすぎた庭園樹の管理費や安全等の問題でお悩みになられている方々のお話も伺います。また、家を建てたけどお庭をどうしたらいいのかわからないというお悩みを聞くこともあります。そんな時に本書を見ていただき、また、「緑の応援団」を自負する私達にご相談いただきますと幸いです。

本書は甲府市を中心とした気象条件を元に製作しています、本ハンドブックに書かれていることは基本的な内容ですので、詳細は我々専門家に相談していただきますよう御願いたします。

目 次

お庭のメンテナンスについて

- ・ 樹木の整枝・剪定
- ・ 病虫害防除について
- ・ 肥料について
- ・ 灌水について
- ・ 除草について
- ・ 芝生の管理について

樹木の整枝・剪定

なぜ剪定が必要なのか？

庭木は植えたままにしておくと、自然な形に伸びていきます。自然樹形が好きな方や広大なお庭をお持ちの方はそのままでいいのかもしれませんが、しかし、お庭の中の限られた空間に形良く収めるにはどうしても手を加える必要が出てきます。例えば伸びすぎた枝が隣の木と重なってしまったり、敷地の外に出てしまったりと樹形が乱れていくことで色々な問題が出てきます。また、枝が混んでくると内側が日照不足により枝枯れを起こしたり、風通しが悪くなったりすることで病害虫の発生を招くことがあります。花や実をつける樹種では花付きが悪くなったり実を付けなくなったりすることもあります。こういった様々な事が起こらないように目的に合わせて庭木をコントロールする為には剪定作業が必要となります。

樹木の整枝・剪定

剪定を行う時期は春季剪定から冬季剪定までその季節ごとに行う事ができますが、一般的に夏季剪定と冬季剪定が行われています。剪定の方法は落葉樹・常緑樹・針葉樹ごとにまとめたお話をします。

まず、落葉樹は休眠期の11～2月が剪定の適期です。落葉しているので枝ぶりや枝の分岐が分かりやすく、作業もしやすいでしょう。次の項目にある不要枝を中心に剪定することですっきりとした樹形の維持を心がけてください。

常緑樹は冬季に強く剪定や刈込を行うと寒さにより傷むものが多いので、樹形を小さくする為に切り詰める場合は、切った後の芽吹きが良い5～7月の夏季に剪定を行ってください。冬季剪定は樹形を整える程度に留めることが良いでしょう。

針葉樹は冬季に行う方が良いものと常緑樹と同様に行うものとがありますので、樹木の性質に合わせて剪定をしてください。

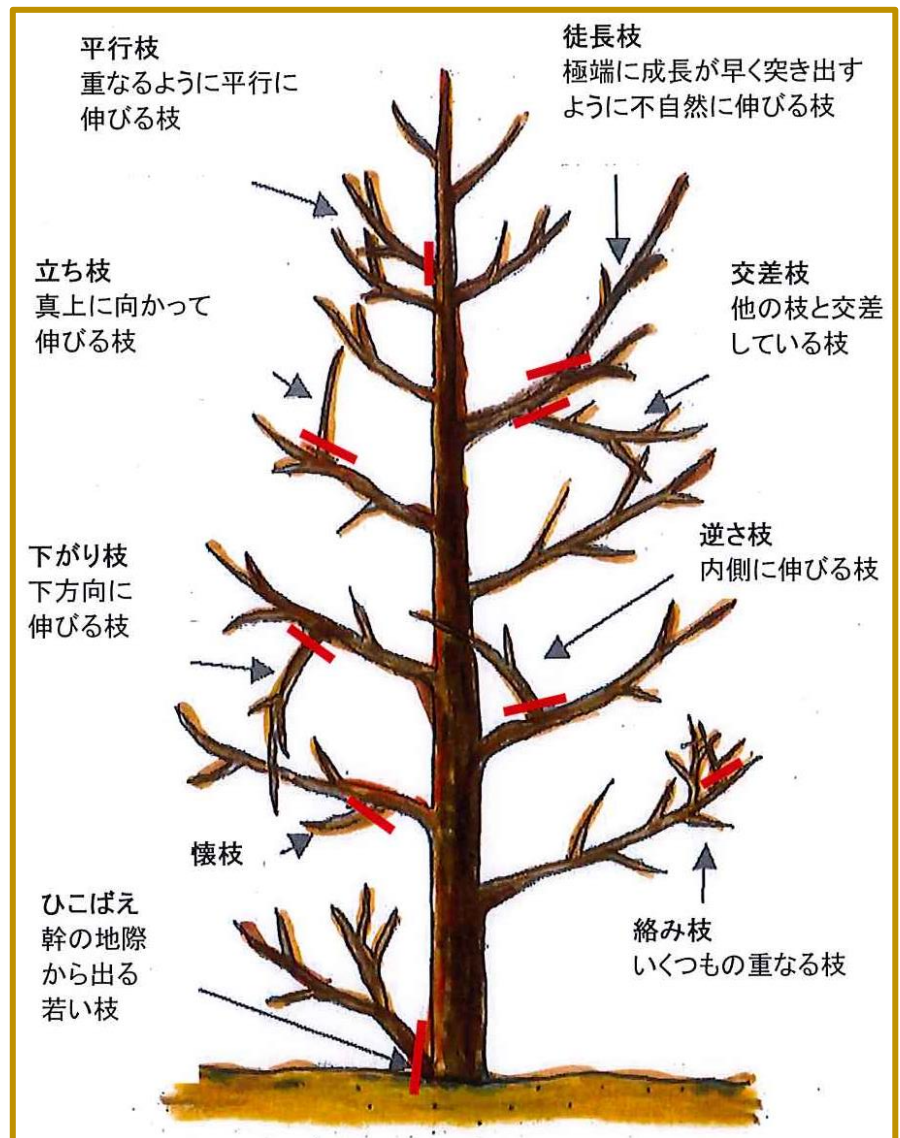
強剪定や枝下ろし等大きく枝や幹を切ることは樹木にとってかなりのストレスになりますので、時期や切り方は出来るだけ専門家に相談してください。

生け垣等の剪定はエンジン式や電気式のバリカン(ヘッジトリマー)の利用が増えてきました。刈込み作業の注意点はハサミを使ったものと同様ですが、太い枝等は剪定鋏やノコギリで処理をして細い枝や葉の部分を刈込むように作業を進めてください。また、機械の使用時は保護めがねをして、取扱説明書を熟読してから作業をしてください。

不要枝の種類

剪定作業を行う際にどれを切ったらいいのか悩んでしまうことがあるでしょう。そんな時に思い出してほしい「忌み枝」と言われる不要な枝があります。これらの枝は樹勢を弱めたり、樹形を乱したりするので基本的には切ることをお勧めします。ただし、枝数が少ない場合は枝が増えるまで残しておいてもかまいませんが、枝が太くなる前になるべく早く切除するようにしてください。

忌み枝の種類は左図を参照してください。



豆知識・Q&A

よくどれを切っていいのかわからないという話を聞きますが、まず枯れた枝からきれいに剪定してください。その後に上記の不要枝を切ります。この段階でかなり形が整い、枝がすっきりしてきますので、後は勇気をもって自分がいらないと思う部分を剪定して仕上げてください。

また、花が咲かない、花数が減った等花木の剪定には少し気を付けないといけません。殆どの花木は花が咲き終わるころに剪定を行い冬季剪定では飛び枝を揃える程度にしておくと花芽が残り、翌年花を良くつけるようになります。ただし、剪定方法を変えただけでは大きな変化がないかもしれません。その場合は、後の項目でも触れますが、施肥作業を行い養分を補うことも必要かもしれません。

病虫害防除について

病虫害防除の考え方

病虫害防除の基本的な考え方は対処療法です。病気に関しては予防としての散布もありますが、害虫駆除については直接または間接的に害虫に薬剤を付着又は摂取させる必要がありますので出始めの時期を見計らって散布する必要があります。薬品により効果の持続期間もまちまちですので、お庭をよく見て食害やフン等のシグナルを見逃さず適期に防除を行いましょう。



植物の種類により害虫や病気が付きやすい物・付きにくい物があります。近年、マツノザイ線虫病が猛威を振るっていますが、マツノザイ線虫病は健康なマツに進入すると確実に枯れる病害ですので予防対策が必要です。しかし、ポジティブリスト制度のような残留農薬等に関する新しい制度も施行されており、周辺に農地や果樹園がある場合は散布にも注意が必要です。



病虫害の発生時期

ここでは代表的な病虫害の発生時期を載せておきます。

害虫の中にはチャドクガやイラガなどの有毒の虫もいますのでご注意ください。

病虫害カレンダー

害虫名\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
アブラムシ												
バラゾウムシ												
ハダニ												
ヨトウムシ												
カミキリムシの幼虫												
チュウレンジバチの幼虫												
コガネムシの幼虫												

病名\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
黒星病(黒点病)												
うどん粉病												
灰色カビ病												
べと病												
枝枯病(ステムキャンカー)												
すす病												

※使用する薬剤については樹種により薬の種類や希釈倍率、使用回数が異なる為、専門家に相談の上散布することをお勧めします。

薬剤の散布方法

現在発生しているものが、病気・害虫かを見極め、発生している病気・害虫にあった薬剤を使用してください。最近では殺虫剤と殺菌剤が混ざっている物も販売されており便利ではありますが、製品ラベルに表示されている使用法や、希釈倍率、適用樹木等を確認して使用してください。一般に販売されているスプレー式のタイプでも十分効果はありますが、高木などに散布する場合や広い面積を散布する場合は噴霧器の使用をお勧めします。小さな加圧式の物から動力付きのものまでさまざまにあります。ご自分のお庭と体力に合わせて使う器具を選んでください。

散布作業は、気温の高い時期は避けて、早朝や午前の涼しい時間に行いましょう。また、飛散防止のため、風が強い時は作業を中止しましょう。

例外はありますが、樹木に活力があれば多少の害虫では木が枯れることはありません。健全な状態を維持して庭木を管理することが一番の防除になります。

豆知識・Q&A

薬剤を使用しない方法の中でも一番確実な方法に成虫や卵を直接捕まえ駆除する「捕殺」があります。大量に発生している場合はとても大変な作業になりますが、環境へのストレスを軽減する上では有効な作業の一つです。また無農薬の防除方法は、効果



はまちまちですが様々なものがネット上に公開されています。興味のある方は検索をしてみてください。

大切な樹木を護るために薬剤防除は必要な作業ですが、生態系には少なからず影響を及ぼし、また人体への影響もゼロではありませんので、適切な薬品を適切な量だけ散布する。そう心がけていただければと思います。

肥料について

施肥の考え方

植物を元氣よく育てるにはどうしたらいいか？こう聞くと大半の人は「沢山肥料をあげる」と答えるでしょう。しかし、実際は逆効果になってしまうことが多く、重要なポイントは「適期に適切なものを適量施す」ことで、決してたくさん与えたからと言って良い結果が得られるというものではありません。

肥料の施し方と時期

施肥の方法には右図の様につぼ肥法・輪肥法・表面施肥法・放射状施肥法があり、目的や木の大きさ、周辺状況に応じて選んでください。

樹木の場合、苗の間は生育に応じて施肥を行いますが、成木になったら年1～3回、12～2月の寒肥と樹種ごとの適期に緩効性肥料を与えるようにします。

多くの花木には5～6月に花のお礼肥として肥料を与えましょう。同様に果樹もその種類ごとに施肥を行い果実の充実を図りましょう。

下表は大まかなものですが、参考にしてみてください。



施肥カレンダー

(関東地方以西基準)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
多くの花木		寒肥				お礼肥					寒肥	
果樹			柑橘類								寒肥	
落葉樹		寒肥									寒肥	
常緑広葉樹			緩効性肥料(2回)									
針葉樹						緩効性肥料(少量3回)						

肥料の種類と効果

肥料の要素は大きく分けて「3要素・中量要素・微量要素」の3種類に分類されます。

主に肥料の3大要素として挙げられるのが「チッ素」「リン酸」「カリウム」の3要素です。効果は下図にあるように植物の各部位の成長にそれぞれ大きな効果を発揮します。また、その他にも中量要素、微量要素と呼ばれるものがあり、それぞれが3大要素を補助する役割を持っています。

肥料の要素

肥料のなかみ

① 3要素

② 中量要素

③ 微量要素

① 3要素

「肥料の3大要素」という言葉を聞いたことがある方も多いと思います。この3要素とは、特に植物が多量に必要とする要素の事です。

N 窒素

《効果》
葉・茎の生育を促進すると、植物を大きく育てるのに効果を発揮する。

P リン酸

《効果》
花・実の着きや質、根の生育を促進します。

K カリウム

《効果》
茎・根を丈夫にするのと、暑さ寒さの耐候性や病害虫の抵抗性を高めます。

② 中量要素

欠乏症を防止する効果があったりと、3要素に次いで大切な要素とされています。

Ca カルシウム

《効果》
植物の体全体を丈夫にし、細胞を強化します。

Mg マグネシウム

《効果》
リン酸の吸収を助け、植物内での控訴を活性化させます。 酵素

S イオウ

《効果》
根が弱っている時に与えると、根の発達を助けます。

③ 微量要素

あまり多くは必要としないのですが、健康に生育する上で必要な要素です。

要素名	効果
鉄	酸素の運搬を助ける成分。
マンガン	光合成を行う時に必要な成分。
銅	花や実の付く成熟した株になる為の成分。
ホウ素	根の成長と花付きに必要な成分。
亜鉛	植物の成長する速さに関係する成分。
モリブデン	窒素の消化吸収を助ける成分。
塩素	光合成の時に出す酸素と関係する成分。

豆知識・Q&A

早く成長させたい、良い花を咲かせたいからといって、肥料のやり過ぎは禁物です。例えばN(窒素)の多い肥料を過剰に与えると葉が繁りすぎて花付きを悪くします。そのうえ茎葉が軟弱になり病害虫にかかりやすくなるなどの悪い影響を及ぼします。施肥は適度に行ってください。詳しくは専門家にご相談ください。

灌水について

灌水について

お庭の管理の中で一番身近な作業ですが、一番疎かになっている作業が「灌水(水やり)」です。

木や草花が枯れた時にお話をすると、皆さん「毎日欠かさず水をあげていた」とおっしゃいます。しかし、毎日水やりはしていたのですが、量が足りていないことが見受けられました。灌水とはただお水をかけるのではなくて、植物に必要な要素として「水」を施す作業だと思って、次にあげるポイントをふまえてしっかりと行うことで、植物にとってより良い環境を作ることができます。

灌水の役割

植物は、根から水分や酸素、栄養を体内に取り込んで生長しています。灌水をすることで与えられた水分が根を通して植物に吸収されます。その際根から吸収された養分や葉で合成された同化産物などの移動を助ける働きもしています。また、水分を葉から蒸散することで温度調節も行っ

ています。ただ、膨圧による体制の維持にも関わっているため根から吸収する水分よりも葉から蒸散する水分が上回ると植物が萎れ、最悪の場合枯れてしまいます。

以上の様に「水」は植物の生育に欠かせないものですので、人為的に水を施す灌水作業は適正な生育を助ける大事な作業となります。



新植・移植木への灌水のポイント

植え付け後、移植後の庭木は根がダメージを負っているため通常の庭木よりも水を吸い上げる力が弱くなっています。そのため、灌水を頻繁に行う必要があります。

春季・秋季の灌水は1～2日おきの灌水を目安にしましょう。成長のため活動が活発になっている時期でもあり、植物にとっても過ごし易く負担の少ない季節ですので、水を切らさないことだけ注意しましょう。

夏は猛暑と乾燥で植物が疲れやすい季節です。灌水が非常に重要な時期と言えます。植え付け直後であれば1日2回水やりを行いましょう。この時、昼間の散水は水滴がレンズの代わりとなって葉を傷めるので、早朝もしくは夕方に灌水を行うと良いでしょう。また、ホース内で温まった熱い水が樹木にかからないよう、出始めの水は捨てるように気を付けましょう。

冬場は気温が下がり、落葉樹は休眠状態に入ります。地面の状態を観察し、乾燥しないように水やりを行いましょう。夕方以降に水やりを行うと、冷たい水が根を傷める恐れがあるため気温が上がりだした午前中が最適です。

定植後の庭木への灌水のポイント

定植後、1年以上経っている樹木は土に馴染み根も伸びているため、移植後の樹木程灌水を行う必要はありません。ただし、晴天が続く日と夏場の猛暑には気を付けましょう。

春季・秋季の灌水は3～4日おきを目安にしましょう。注意点は新植・移植木と同じです。

夏季の灌水は毎日もしくは1日おきを目安にしましょう。注意点は新植・移植木と同じです。

冬季は晴天が続くようなら10日に一度程度水やりをしましょう。注意点は新植・移植木と同じです。

豆知識・Q&A

灌水の量的な目安ですが、土壌の深くにある根に水分を到達させなければならないので少量をこまめに与えるというよりは、しっかりとした水量を一度に与える方が好ましいのは確かです。灌水の失敗の多くはここにあって、地面が湿ったことで灌水が終わったように見えるのですが、実際は表層にしか水は浸みておらず水分が不足してしまっているのです。時間はかかりますが、降雨の状況などを見てしっかりと灌水を行うようにしてください。

近年は自動灌水の機器も安価になっていますので、そういった新しいシステムを使う事も自身の負担を軽くするためには有効かもしれません。

除草について

除草について

毎年草花の芽吹きと共に始まる雑草との戦い。せっかくお庭を作っても草花が覆われてしまい、一年中草取りをする羽目に。こんなお話をいたる所で耳にします。お庭に嫌気がさす前に草取りをいかに軽減するかを考えてみてはいかがでしょうか。

雑草の発生を抑制するポイント

お庭づくりの最初に土の入替を行うことがあります。新しくきれいに見える土にも少なからず草の種は含まれています。これは仕方のない事なので、出てくる雑草をいかに迅速に取り除くかが雑草の発生を抑制するポイントになります。

芽吹いたばかりの雑草はまだ根も張っていないので簡単に取り除くことができます。人力でやる場合、立カンナ等を使って一気に取り除くのも一つの方法です。ですが、初期の段階で少量の除草剤を使って雑草を処理することで、発生したばかりの雑草を一気に減らすことはその後の除草作業を軽減する一助になるはずです。

雑草を増やさないポイントで一番重要なものは「種を落とさせないこと」です。ガーデニングをやる上で除草作業は絶対に必要になります。初期に除草剤を撒いてもいずれどこから種が舞い込みます。せっかく減らした雑草を継続的に減らし、また増やさないためには雑草が種を作る前に抜いてしまう事です。とても簡単な事です、この少しの努力が雑草の発生を抑制する重要なポイントになります。

豆知識・Q&A

土が露出している場所にはどうしても雑草が生えてきますので、除草する面積を狭くするのも除草作業を簡単にする工夫の一つです。中でも有効な方法は防草シートを敷設した上に砂利やウッドチップを敷いて地表面を覆ってしまう方法です。防草シートを敷くことで雑草の発生はかなり抑えられます。



芝生の管理について

芝生の管理について

お庭を作るときに「やりたいけど芝生は手間がかかるから…」という声をよく聞きます。確かにこまめに芝刈をしたり、雑草の管理をしたりと多少手を加えなければなりませんが、目指す地点がゴルフ場のグリーンという事でなければそこまで大変なものではありません。良い環境の下で適切な管理をしていけば芝生の維持はそれほど難しい事ではないのです。



芝刈について

綺麗な芝生を維持するためには大事な作業です。刈込むことによって芝生に適度の刺激を与え、上に伸びようとする力を抑制し新しい匍匐茎の成長を促す効果があります。

時期としては4月下旬から10月上旬までの生育期に1か月に2回程度を目安に行いましょう。夏は特に成長がいいので、1週間に1回と頻度を上げてもいいでしょう。刈るときに注意することは、生長点より上の位置で刈ることです。目安としては、地表から2cm内外の高さを基準としてください。生長点よりも短く切ってしまうとそれ以上が伸びにくくなってしまうので、短くしすぎには気をつけましょう。また、放置して長く伸びすぎた芝生は一度に刈り戻すのではなく段階的に短くしていきましょう。

芝生の施肥について

施肥は芝生の生育状況によるので一概には言えませんが、一般的には4月下旬から10月上旬までの生育期に3回ほど化成肥料を散布します。目安としては1㎡に30gほどで、芝生の様子を見つつ肥料を与えるようにしましょう。芝生用の肥料は窒素・リン酸・カリが同じくらいにバランスよく配合されているものが多いです。猛暑日は肥料焼けを起こしやすいので出来るだけ避けましょう。



目土について

目土には、芝生の凹凸をなくす役割と生長を促進させる役割があります。目土は必要に応じて行えばいいので毎年やる必要はありませんが、緻密な芝生を作るうえで大切な作業です。目土には、市販されている専用の目土又は砂をまき、トンボなどで広げ、たっぷりと水をやりましょう。葉が埋まってしまわないように注意してください。サッチングやエアレーションを行った後に目土をするとより効果的です。

灌水について

芝生は過湿を嫌う植物ですが、あまり乾燥しすぎると生育は衰えます。葉先が丸まってきたり、葉色がさめてきて全体的にカサカサして元気がない状態は水不足を示します。地表面だけの灌水にならないように回数は少なくてもいいので一度にたっぷりと与えるようにしてください。

盛夏の灌水は、暑い日中は避け、朝か夕方に行いましょう。

除草について

芝生の除草は大きく分けて抜根除草と除草剤散布の2種類になります。抜根除草は雑草が大きくならないうちにこまめにやるのが肝心です。大きくなった雑草を除去するときは当然芝の根も痛めます。抜いた後を目土で補修しておきましょう。

広範囲の雑草の根絶には除草剤散布をお勧めします。ホームセンター等に置いてある粒状の芝生用除草剤を扱う場合は使用量に注意をしてください。風雨により薬剤が溜まる箇所があると芝生まで枯れることがあります。発芽抑制作用のあるものや枯らす雑草を限定しているものもあるので、除草剤散布については身近な専門家に相談することをお勧めします。



エッジの処理

芝刈の時に花壇の縁や石の際など芝刈機では刈りきれない場所の処理をエッジ処理またはエッジングと言います。せっかく刈りそろえた芝生ですのでもうひと頑張りして美しい芝庭を目指しましょう。従来は手鋏や刈込鋏を使って刈っていましたが、近年では芝刈専用の鋏やエッジ処理用の電動バリカンなども登場し格段に施工しやすくなりました。レンガや砂利などの際もきれいに刈り取ることで越境を防ぎ、ワンランク上の芝庭を造ることができます。

豆知識・Q&A

芝生を管理する上で大切な作業にサッチングとエアレーションがあります。サッチングとは、サッチ（枯れた芝の葉や茎）を熊手や箒を使って取り除くことで空気や水の流通を良くし芝生の生育をよくする作業です。サッチングをまめに行うと病害虫の発生を軽減できます。エアレーションは芝生面に穴をあけることで、それにより地中への通気と水の浸透を良くし、空けた穴に目土を入れることにより芝生の根詰りを改善する作業の事です。



年間管理カレンダー

樹木の管理

[illegible]

芝生の管理

[illegible]